

事務事業名	予防接種事業（BCG・ヒブ・小児用肺炎球菌）			担当	健康福祉部 健康増進課 母子健康係			
政策名	C	思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり			電話番号	0285-83-8121		
施策名	06	健康づくりと適切な医療の確保			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ			
法令根拠	予防接種法、真岡市ヒブワクチン（小児用肺炎球菌）接種費用助成事業実施要綱				<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和26年度～）			
予算科目	1. 一般会計	4. 衛生費	1. 保健衛生費	2. 予防費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
事業概要	予防接種は予防接種法により市長村長が行うこととされており、予防接種の対象者は、予防接種を受けるよう努めなければならないとされている。BCG：結核の予防を図ることによって、結核が個人的にも社会的にも害を及ぼすことを防止し、もって公共の福祉を増進することを目的とする。我が国の結核はかなり減少したがまだ毎年2万人を超える患者が発生している。乳幼児は結核に対する抵抗力が弱いので、全身性の結核症や結核性髄膜炎にかかることもあり、それらの重い後遺症を予防することができる。1歳未満の乳児を対象に実施している。【ヒブ・小児用肺炎球菌】日本では、およそ1,000人の乳幼児が細菌性髄膜炎に罹るといわれている。その約6割がインフルエンザ菌b型（ヒブ）、約3割が肺炎球菌によるものであり、そのうち約5%が死亡し、約20%が後遺症を残すといわれており、国の補助事業により、市では平成23年1月から実施している。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 25年度実績 BCG・ヒブ・小児用肺炎球菌： 出生時に予防接種の予診票一式を渡し説明した。赤ちゃん訪問の際に予防接種の指導した。乳幼児健診時に予防接種の実施状況を確認し指導した。医療機関に予診票及び接種に関する説明書を備え、保護者の接種希望により個別接種で実施した。医療機関からの実施報告書整理及び支払、予防接種台帳の入力。 26年度計画 BCG・ヒブ・小児用肺炎球菌：平成25年度と同様	⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移 名称 単位 22年度(実績) 23年度(実績) 24年度(実績) 25年度(実績) 26年度(見込) ア BCG接種者数 人 762 682 685 614 600 イ ヒブ第1回目接種者数 人 406 1,116 984 776 800 ウ ヒブ接種者延数 人 579 2,429 2,948 3,054 3,100 エ 小児用肺炎球菌第1回目接種者数 人 391 1,249 1,005 780 800 オ 小児用肺炎球菌接種者延数 人 548 2,836 3,159 2,911 3,000
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 BCG：生後1歳未満の乳児 ヒブ・小児用肺炎球菌：生後2カ月から5歳未満の乳幼児	⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移 名称 単位 22年度(実績) 23年度(実績) 24年度(実績) 25年度(実績) 26年度(見込) ア BCG対象乳児数 人 772 707 721 708 690 イ ヒブ対象乳児数 人 3,798 3,770 3,773 3,689 3,650 ウ 小児用肺炎球菌対象乳児数 人 3,798 3,770 3,773 3,689 3,650 エ オ
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 予防接種を受けることにより、乳幼児の感染症を予防する。	⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移 名称 単位 22年度(実績) 23年度(実績) 24年度(実績) 25年度(実績) 26年度(見込) ア BCG接種率 % 98.7 96.5 95.0 86.7 87.0 イ ヒブ接種率 % 10.7 64.4 78.1 82.8 84.9 ウ 小児用肺炎球菌接種率 % 10.3 75.2 83.7 79.0 82.2 エ オ
④ 結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 感染症の発生予防、まん延防止を図り、健康な状態で生涯暮らしてもらう。	⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移 名称 単位 22年度(実績) 23年度(実績) 24年度(実績) 25年度(実績) 26年度(見込) ア 予防接種を受けて健康な生活を送れた割合 % 100 100 100 100 100 イ ウ エ オ
(2) 総事業費の推移	単位 22年度(実績) 23年度(実績) 24年度(実績) 25年度(実績) 26年度(見込) 国庫支出金 千円 0 0 0 0 0 県支出金 千円 10,192 24,055 27,759 0 0 地方債 千円 0 0 0 0 0 その他 千円 0 0 0 0 0 一般財源 千円 6,354 34,238 38,653 64,332 68,059 事業費計(A) 千円 16,546 58,293 66,412 64,332 68,059 正規職員従事人数 人 4 4 4 4 4 延べ業務時間 時間 310 330 300 300 300 人件費計(B) 千円 1,323 1,400 1,261 1,219 1,219 トータルコスト(A)+(B) 千円 17,869 59,693 67,673 65,551 69,278

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	BCG：結核予防法に基づき、昭和26年から開始している。平成6年の予防接種法改正により、ほかの感染症と合わせて、個別接種に移した。 ヒブ・小児用肺炎球菌：国の補助事業により、平成23年1月から実施した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	BCG ・平成15年から小・中学生の結核集団予防接種がなくなり、個別接種となった。 ・平成17年4月1日から結核予防法が改正され、ツ反が廃止となり直接BCG接種のみとなった。対象年齢が6カ月未満に引き下げられた。 ・平成19年度より結核予防法は廃止され、予防接種法による接種となった。（接種内容に変更なし） ・平成25年4月1日から対象年齢が1歳未満に引き上げられた。 ヒブ、小児用肺炎球菌 ・平成25年4月1日から予防接種法に基づく定期予防接種となる。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 予防接種法に基づく感染症の発生予防、及び、真岡市ヒブワクチン接種費用助成事業実施要綱、真岡市小児用肺炎球菌接種費用助成事業実施要綱に基づき実施しているため市の施策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 予防接種法で市町村の業務となっている。また、市民の健康保持は市の役割である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 予防接種法及び真岡市ヒブワクチン接種費用助成事業実施要綱、真岡市小児用肺炎球菌接種費用助成事業実施要綱に基づき実施しているため、対象・意図は適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 予防接種法及び真岡市ヒブワクチン接種費用助成事業実施要綱、真岡市小児用肺炎球菌接種費用助成事業実施要綱に基づき実施しているため、向上の余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 予防接種法に基づく事務であり、廃止・休止はできない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 予防接種法に基づき実施しているため、削減できない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限の人件費であるため、削減できない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 法に定められた対象者を対象としているため、公平・公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							